

次第

■ 1. 開会

■ 2. 委嘱式

■ 3. 市長挨拶

■ 4. 自己紹介

■ 5. 会長・副会長の選出

■ 6. 就任挨拶

■ 7. 議題

(1) 岸和田市文化振興計画の策定について

・今後のスケジュール (案)

事前配布資料に基づき今後のスケジュール (案) について説明。

今回の第12期審議会は、次期文化振興計画の策定を中心に審議する。

6月頃にアンケート項目の確定し、アンケートを実施。

その後、アンケートを実施しつつ関係各部署を集めた庁内組織の立ち上げ、各文化団体・各種団体・市民を集めた懇話会を開催し、意見徴収を行う予定。

10月頃に第2回審議会を開催し、アンケート結果、懇話会・庁内組織の内容、体系案の報告を行い、審議する。

12月頃に第3回、3月頃に第4回審議会を開催し、懇話会・庁内組織の進捗状況を報告しつつ、計画素案を審議する。

令和5年では、6月にパブリックコメント実施、8月の第5回審議会でパブリックコメントの結果報告を行い、9月に計画策定完成予定。

詳細は、資料6スケジュール案に記載。

・文化振興計画の構成 (案)

事前配布資料に基づき次期計画の構成案について説明。

現行の計画と同様の体系で考えている。

次期計画も現在掲げている基本目標を推し進めていく予定。

(2) 市民アンケートについて

事前配布資料に基づきアンケート概要について説明。

アンケートは、大きく分けて2種類の市民向けと団体向けで実施。

調査人数は現在検討中であり、前回は1,000人に調査依頼を行っている。

調査期間を6～7月とし、2週間後に締切を設定予定。

(委員) アンケートの調査期間が2週間程度とのことだが、どうして2週間なのか。より多くの方に回答いただくには短いのではないか。

(事務局) 前回の実施期間を踏襲して2週間程度としているが、郵便事情等もあるため、もう少し長い期間での設定も検討する。

(会長) 期間が長すぎると回答するのを忘れてしまうこともあるため、調査期間の設定はなかなか難しいかと思う。

(委員) 前回のアンケート対象が1,000人程度、今回は11の中学校区ということだが、対象者の抽出はどのように行うのか。

(事務局) 実際のアンケート回収率でいうと前回は3割程度だった。抽出はランダムに行う予定。

(委員) 調査対象の団体は何団体ぐらいあるのか。市に関わっている団体のみに行うのか。

(事務局) 文化祭に参加している団体や、マドカホールを利用している団体が主になる。文化祭参加団体でおよそ30団体あり、その他にも公民館で活動されている団体が多数ある。そのうちの100団体程度を対象と考えている。

(委員) 大きい団体、小さい団体、個々で活動している団体など色々な団体があるが、どのように調査対象を考えるのか。

(事務局) 団体の大きさに関わらず、広く意見をいただきたいと考えている。

(委員) 市と関わらず個々で活動している団体が多くあるかと思うが、そのような団体はどう考えているのか。

(事務局) 今後検討していくところではある。

個々で活動されている団体はかなり多いため、すべての団体への調査は難しい。

マドカホールで活動されている方については、できる限りアンケートを回収したいと考えているが、公民館等で活動されている団体についてはどこまでご協力いただけるかが分からない。

(委員) 1,000人に調査ということは前回の回収率をふまえると300人程度から回収できるということか。

300人からの回答で、きちんとした意見をまとめることはできるのか。

1,000人ほどから回収できるぐらいの調査数にしてはどうか。

(事務局) 前回、一般からの回収率が3割であった。事務局としても回収率を高く望んでいる。

単純に考えると300人からの回収となり、議論はでてくるかと思う。その点を踏まえて、調査数が適正かを再度検討していきたい。

なお、一般向けの調査では3割程度の回収率となっているが、文化団体からは7割以上、教育・保育関係からは8割、6割程度の回収となっている。

全体として集約できれば、ある程度意見はいただけると考えている。

(委員) 回答の中でコロナ関係の意見がたくさん出てくるかと思うが、アンケート結果がどのように見えるのかが気になる。

(事務局) 事務局としてもどのような回答が返ってくるか、現時点ではわからない。

コロナの影響でライフスタイルもかなり変化しており、芸術鑑賞の機会などが減少しており、アンケート結果にどこまで影響が出るかの予想が難しい。

その状況において、文化振興において行政に求められるものは何か、などの意見をいただければと考えている。

(会長) コロナのことは私も気になっていた。例えば、アンケートの項目そのものにコロナでどのような影響や変化があったかというものを付けてしまうのも1つの方法かと思う。

(会長) 前回のアンケートはいつ実施されたのか、市民個別と文化団体の2パターンだったのか。

(事務局) 前回のアンケートは、平成 25 年 11 月に実施している。
市民向け、文化団体向け、学校教育向け等で行っている。
(詳細は計画冊子 P10 に記載)

■ 8. 今年度の文化振興事業について

資料 7、資料 8 に基づき今年度の文化振興事業について説明。

1-1 企画事業については昨年一昨年と中止となっていたが、今年度は感染症対策を取りながら実施に向けて準備を行なっている。

(委員) 南海岸和田駅の周辺をよく通り、岸和田市制 100 周年記念ロゴマークを掲げているのを見かけるが、小さくて目立っていないように感じる。
せっかく記念事業を企画しているのだから、もう少し分かりやすくアピールする方が良いのではないか。

(事務局) 100 周年記念事業ということで、市全体で盛り上げていこうと各所管部署で冠を掲げて取り組んではいるが、地域全体でという意味合いの中では PR が弱いのかも知れない。その点については 100 周年記念事業担当課(企画課)へ意見を伝える

(委員) 100 周年記念事業によって、周辺からも岸和田に目を向けていただけ、岸和田自体も大きな節目を迎えるにも関わらず、盛り上がりには少し寂しいように感じる。

(会長) 市民の方が実感されていることだと思うので、盛り上げる方法を検討いただきたい。

(委員) スケジュールの中に懇話会の開催があるが、内容はどのようなものか。

(事務局) 現在、参加者の募集を行っている。
アンケートと同様に、施設のあり方等への率直な意見をいただきたいと考えている。

(委員) 小学校の学校協議会(2月頃)で、「文化振興審議会で 100 周年記念事業という話がでているが、教育委員会を軸に 100 周年をちなんだ事業の計画はあるのか。」と質問したところ、「何もない。」との回答が返ってきたことにショックを受けた。市役所職員、教職員など、一致団結して取り組まれているように感じられなかった。

一方、テレビで記念事業の宣伝を観る機会があり、力を入れていると感じることもあった。

せっかくチャンスなので、知らない間に1年が過ぎてしまうようなことにならないことを願っている。

(事務局) 学校教育課が市制施行100周年記念作品展などの事業を企画している。

少しずつではあるが、各課も取組みを進めているように思われる。

(委員) 展覧会などの事業実施の有無ではなく、小中学校の現場で、生徒に対して市制施行100周年ということ認識させるような取組みをしてほしい。

(委員) イメージとしてだが、100周年記念事業は市が決定して市民へ降りてきているように思う。もっと市民へ初めに説明、意見徴収をしてもらえれば良かったのではないか。

(事務局) 市制施行100周年に関する意見を何件かいただき、ありがとうございます。

周知不足ということは否めない点があるため、100周年担当課(企画課)へ伝える。

学校教育現場の対応は、カリキュラムの進捗状況を確認しながらとなるため、現場の先生方にお任せしている。

市民の盛り上がりに関わるPRについては、予算が必要になるため、市役所のみではなく商工会議所など他の団体をお願いできることはないかを検討していきたい。

行政の平常運営に上乗せして100周年ということで、予算的にかなり厳しい部分がある。

だが、委員の方々がおっしゃるように100周年という冠を被せて、事業のご協力をいただいていることは非常にありがたい。

なにかご要望等があれば随時ご相談いただければと思う。

(会長) みなさんご自身の日常のお仕事で手一杯になっているように思う。

例えば、全体を統括するプロデューサー的存在の方を1人おき、周知徹底や市民の空気を調整していくような体制で進めていく形をとれば良かったのではないか。

(委員) 最近、芸術鑑賞で杉江能楽堂などに行くようになり、色々な取り組みを行っている。文化振興に能楽堂など、歴史を加えてバックアップしていき、芸術鑑賞などを広げていければいいと思う。

(副会長) 100周年のことがどうしても話題になるが、100周年実施事業に関してもプロジェクトチームなどの組織があり、プロフェッショナルな方などがいるのか。そうではなく、担当者が集まって行っているだけなのか。

(事務局) 組織として、岸和田市市制施行100周年記念事業推進本部があり、実行委員会がある。その中で事務局として企画課が取りまとめており、HP等の情報発信を行っている。

(副会長) 色々な点で行政が遅れているのは、プロデューサー能力というところである。事業を行う際は、組織委員会があり多くの人に関わっているようだが、実際はある1人、2人の発想が出発で、物事が構築されている。

実際にアイデアを出してそれを具体化していく組織が必要。

平等により多くの意見を吸収して物事を作っていくというのは行政の在り方として正しいが、市民とどう結びつけていくかというのは行政の力だけでは及ばぬところがあるのではないか。

事業を盛り上げていくには、各事業にプロデューサー的な存在が必要。

(事務局) 100周年に関して、市民と行政が一体となって盛り上げていくという趣旨を再認識できた。

貴重なご意見、ありがとうございました。

■ 9. 事務連絡

■ 10. 閉会